

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校マーキュリー情報コミュニケーションカレッジ
設置者名	学校法人帝南学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養	未来創造 IT 学科		2280 単位時間	160 単位時間	
	未来観光ビジネス学科		2280 単位時間	160 単位時間	
	文化芸術学科		2520 単位時間	160 単位時間	
	未来創造 IT 学科	通信	60 単位	4 単位	
	未来観光ビジネス学科	通信	60 単位	4 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページに記載 (https://micc.ac.jp/disclosure/shugakushien/ichiran)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校マーキュリー情報コミュニケーションカレッジ
設置者名	学校法人帝南学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページに記載 (https://micc.ac.jp/disclosure/director)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社ドウ・プロジェクト 代表取締役社長	3年	モバイルインターネットについての著書がある専門家として、IT 学科の最先端情報等の提供
非常勤	早稲田大学環境総合研究センター 招聘研究員	3年	IT スクールの元代表取締役としての経験を活かし、プログラミング等の指導カリキュラムの提供
非常勤	放送作家	3年	ご自身の経験および人脈等を活かし、文化芸術学科の生徒の就職指導
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校マーキュリー情報コミュニケーションカレッジ
設置者名	学校法人帝南学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバスは例年の授業内容を省みて作成していく。前年度、学生の理解が得にくかった部分などがあれば、授業の進行速度・内容を改めたシラバスを作成し、次年度の4月の更新時に修正する。また、国家試験課題である学科科目・実技科目のすべてにおいて、教科書や配布物、校内の期末試験・卒業試験の結果、近年の国家試験の結果と出題傾向等を確認しながらシラバスの作成と見直しを行う。国家試験課題ではない科目においては、資格取得の為の検定があればその出題傾向を分析し、検定の合格も重点においたシラバスを作成する。そのほか、教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会での意見や関係企業からの情報を元に、今後必要となる新たな知識・技術等や、求められる人材像を把握し、該当する各科目のシラバスに反映させる。作成は本校教員の学科担当者と担任及び教務主任が行い、校長の確認を得て確定させる。その後4月に、本校のホームページ内の情報公開ページの『(2)カリキュラム』の項目にて掲載し、誰でも閲覧が可能な状態で公表することとしている。	
授業計画書の公表方法	ホームページで公表 (https://micc.ac.jp/disclosure/course)
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価の方法・基準としては、主に試験の結果を取り入れることとしている。学科試験・実技試験ともに、前期試験、後期試験の2回行う。学科試験については各教科の担当教員が、授業を行った範囲までの中で、試験問題を作成する。実技試験については、生徒が実施した実技試験の結果を、各採点基準に照らし合わせることにしている。採点基準の統一を図るため、チェック項目を教員で共有し、採点に使用していくこととしている。また、校外の意見も積極的に取り入れていく。学科試験・実技試験ともに、60点未満を赤点とし、追試試験を行う。そのほか、授業態度、出席日数、試験結果の分析により、単位認定不可の可能性や学修意欲の低下が見られるようであれば、本人・保護者・担任の3者面談を行い、進路の確認、今後についての相談、不安点の解消などの指導を行う。(場合によっては、校長・教務主任・学年主任のいずれかも同席した面談、あるいは本人のみとの2者面談も行う) 単位修得には、試験結果が60点以上であることのほか、学則で定めた学科科目・実技科目の各授業時間数の出席率が80%以上であることを原則とするが、授業ごとにシラバスに記載する。	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価の客観的な指標の設定としては、各学年の後期の試験が終了した後、各々の学科にて成績会議を設ける。前期期末試験、後期期末試験、各授業についてのレポート課題等の結果において各科目の平均点を割り出し、100～90点をS、89～80点をA、79～70点をB、69～60点以下をCと評価する。評価された成績は、3月下旬～4月中に課程・科・学年で分けて科目毎に分析することとする。分析すると共に分布図を作成し、生徒の理解の傾向や生徒全体を通しての苦手科目の把握を行ったうえで、シラバスの作成や今後の授業対策に役立てることとしている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>公表方法としては、本校のホームページ内 (https:micc.ac.jp/disclosure/guideline) にて客観的な指標の算出方法を掲載し、誰でも閲覧が可能な状態で公表することとしている。この評価方法は、各生徒が就職希望先に提出する成績表にも摘要され、毎年変わることはない。</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 進級については、以下の条件のすべてを満たさなくては進級が出来ない。学則で定めた学科科目・実技科目ともに、60点以上を取得して合格すること。また、各科目の出席時間数が8割以上であることとする。次に、卒業については、以下の条件のすべてを満たさなくては卒業が出来ない。学則で定めた学科科目・実技科目ともに、60点以上を取得して合格すること。また、学則で定めた履修時間数の出席日数が、各々8割を満たしていること。(不足していれば補習で補う) また、提出物を全て提出しており、授業料に未納がないこととする。修業年数は2年とし、修業年数内で卒業が不可能な場合は、留年となる。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>公表方法としては、本校のホームページ内 (https:micc.ac.jp/disclosure/guideline) にて客観的な指標の算出方法を掲載し、誰でも閲覧が可能な状態で公表することとしている。</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校マーキュリー情報コミュニケーションカレッジ
設置者名	学校法人帝南学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://micc.ac.jp/disclosure/financial-infomation
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://micc.ac.jp/disclosure/financial-infomation
財産目録	ホームページにて公表 https://micc.ac.jp/disclosure/financial-infomation
事業報告書	ホームページにて公表 https://micc.ac.jp/disclosure/financial-infomation
監事による監査報告（書）	ホームページにて公表 https://micc.ac.jp/disclosure/financial-infomation

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	未来創造 IT 学科	申請中			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2040 単位時間/単位	360 単位 時間/単位	1080 単位 時間/単位	240 単位 時間/単位	0 単位時 間/単位	600 単位 時間/単位
			2280 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		0 人	0 人	1 人	0 人	1 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 各授業方法及び内容については、シラバスに定める内容とする。シラバスはホームページ（ https://micc.ac.jp/disclosure/course ）で公表しており、年間の授業計画についても同様とする。
成績評価の基準・方法
（概要） 前期および後期の単位試験の点数を主とし、出席率、課題の点数等を基準に照らし合わせ、総合的に判断する。また、各授業によって異なる基準を設ける場合には、シラバスにその旨記載し、生徒および外部の者にも明らかになるようにしている。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業・進級の認定基準については、学則に定めた学科科目および実技科目をすべて60点以上取得し、合格することを条件とする。
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>生徒への学修支援として、オンライン上での質問可能時間を設けている。 4限終了後 16:40~18:00 また、小中高校の内容を学び直す「リメディアル授業」を実施しており、基礎学力の向上のサポートを行う。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 開校初年度のため、卒業生無し			
(就職指導内容) 開校初年度のため、卒業対象生無し			
(主な学修成果(資格・検定等)) 開校初年度のため、卒業対象生無し			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	未来観光ビジネス 学科	申請中			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2160 単位時間/単位	660 単位 時間/単位	720 単位 時間/単位	120 単位 時間/単位	0 単位時 間/単位	780 単位 時間/単位
			2280 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	0人	0人	1人	0人	1人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 各授業方法及び内容については、シラバスに定める内容とする。シラバスはホームページ（ https://micc.ac.jp/disclosure/course ）で公表しており、年間の授業計画についても同様とする。
成績評価の基準・方法
（概要） 前期および後期の単位試験の点数を主とし、出席率、課題の点数等を基準に照らし合わせ、総合的に判断する。また、各授業によって異なる基準を設ける場合には、シラバスにその旨記載し、生徒および外部の者にも明らかになるようにしている。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業・進級の認定基準については、学則に定めた学科科目および実技科目をすべて60点以上取得し、合格することを条件とする。
学修支援等
（概要） 生徒への学修支援として、オンライン上での質問可能時間を設けている。 4限終了後 16：40～18：00 また、小中高校の内容を学び直す「リメディアル授業」を実施しており、基礎学力の向上のサポートを行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
（主な就職、業界等） 開校初年度のため、卒業生無し			
（就職指導内容） 開校初年度のため、卒業対象生無し			
（主な学修成果（資格・検定等）） 開校初年度のため、卒業対象生無し			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	文化芸術学科	申請中			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2520 単位時間/単位	420 単位 時間/単位	960 単位 時間/単位	240 単位 時間/単位	0 単位時 間/単位	900 単位 時間/単位
			2520 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 各授業方法及び内容については、シラバスに定める内容とする。シラバスはホームページ (https://micc.ac.jp/disclosure/course) で公表しており、年間の授業計画についても同様とする。
成績評価の基準・方法
(概要) 前期および後期の単位試験の点数を主とし、出席率、課題の点数等を基準に照らし合わせ、総合的に判断する。また、各授業によって異なる基準を設ける場合には、シラバスにその旨記載し、生徒および外部の者にも明らかになるようにしている。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業・進級の認定基準については、学則に定めた学科科目および実技科目をすべて60点以上取得し、合格することを条件とする。
学修支援等
(概要) 生徒への学修支援として、オンライン上での質問可能時間を設けている。 4限終了後 16:40~18:00 また、小中高校の内容を学び直す「リメディアル授業」を実施しており、基礎学力の向上のサポートを行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
（主な就職、業界等） 開校初年度のため、卒業生無し			
（就職指導内容） 開校初年度のため、卒業対象生無し			
（主な学修成果（資格・検定等）） 開校初年度のため、卒業対象生無し			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士				
文化・教養	専門課程	未来創造 IT 学科	申請中					
修業 年限	昼夜 通信	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	通信	60単位	20単位	12単位	8単位	0単位	20単位	60単位
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
80人	1人	0人	0人	0人	0人			

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 各授業方法及び内容については、シラバスに定める内容とする。シラバスはホームページ（ https://micc.ac.jp/disclosure/course ）で公表しており、年間の授業計画についても同様とする。
成績評価の基準・方法

<p>(概要)</p> <p>レポート、スクーリング、前期および後期の単位試験の点数を平均化し、成績評価とする。また、各授業によって異なる基準を設ける場合には、シラバスにその旨記載し、生徒および外部の者にも明らかになるようにしている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要)</p> <p>卒業・進級の認定基準については、学則に定めた学科科目および実技科目をすべて単位合格し、修得することを条件とする。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <p>生徒への学修支援として、オンライン上での質問可能時間を設けている。 4限終了後 16:40~18:00 また、小中高校の内容を学び直す「リメディアル授業」を実施しており、基礎学力の向上のサポートを行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 開校初年度のため、卒業生無し			
(就職指導内容) 開校初年度のため、卒業対象生無し			
(主な学修成果(資格・検定等)) 開校初年度のため、卒業対象生無し			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	未来観光ビジネス 学科	申請中			
修業 年限	昼夜 通信	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	通信	60 単位	10 単位	24 単位	4 単位	0 単位	22 単位
			60 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30 人		0 人	0 人	1 人	人	人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 各授業方法及び内容については、シラバスに定める内容とする。シラバスはホームページ（ https://micc.ac.jp/disclosure/course ）で公表しており、年間の授業計画についても同様とする。
成績評価の基準・方法
（概要） レポート、スクーリング、前期および後期の単位試験の点数を平均化し、成績評価とする。また、各授業によって異なる基準を設ける場合には、シラバスにその旨記載し、生徒および外部の者にも明らかになるようにしている。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業・進級の認定基準については、学則に定めた学科科目および実技科目をすべて単位合格し、修得することを条件とする。
学修支援等
（概要） 生徒への学修支援として、オンライン上での質問可能時間を設けている。 4限終了後 16：40～18：00 また、小中高校の内容を学び直す「リメディアル授業」を実施しており、基礎学力の向上のサポートを行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (%)	0 人 (%)	0 人 (%)
（主な就職、業界等） 開校初年度のため、卒業生無し			
（就職指導内容） 開校初年度のため、卒業対象生無し			
（主な学修成果（資格・検定等）） 開校初年度のため、卒業対象生無し			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
未来創造 IT 学科	100,000 円	600,000 円	260,000 円	
未来観光 ビジネス 学科	100,000 円	600,000 円	260,000 円	
文化芸術 学科	100,000 円	600,000 円	400,000 円	
未来創造 IT 学科	100,000 円	300,000 円	180,000 円	通信制課程
未来観光 ビジネス 学科	100,000 円	300,000 円	180,000 円	通信制課程
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://micc.ac.jp/disclosure/self-assignment 令和4年度開校のため、令和5年度末までに評価を確実に公表する。		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校が策定した重点目標、計画の実施についての自己評価結果、評価結果に基づく今後の取組方針などについて、学校関係者自らが学校見学や教職員・生徒やステークホルダーとなる関係業界・卒業生と対話を行い、教育活動、学校運営等に係る課題を共有し、今後の方向性等に対する助言等を行う。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
公益社団法人 日本国際生活体験協会 (EIL)	2 年	関連分野関係者
沖縄ホテル協会 事務総長	2 年	関連分野関係者
東海大学 入試広報部長	2 年	大学等
保護者	2 年	生徒保護者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://micc.ac.jp/disclosure/stakeholder 令和4年度開校のため、令和5年度末までに評価を確実に公表する。		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

<https:micc.ac.jp/disclosure/third-party>
令和4年度開校のため、令和5年度末までに評価を確実に公表する。

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
<https:micc.ac.jp/disclosure>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。